

# 松江堀川の現在の河川計画

- 朝酌川全体計画(変更)を平成6年度に作成、その時に、「松江堀川」の主要区間を全体計画対象河川として、計画に取り込んでいます。
- 現在の計画は、松江堀川(北田川、京橋川、四十間堀川、城山西堀川など)において、おおよそ50年に1回の確率で発生する洪水を安全に流す計画です。
- 中川もおおよそ50年に1回の確率で発生する洪水を安全に流す計画です。
- 天神川は昭和40年代より河川改修工事を行っており、その後は、修繕工事で護岸や河床掘削を行っています。

横断面図凡例: 黒線:現況線、赤線:計画線、水色塗:現況の河川、緑塗:計画(掘削、盛土)

### ①、⑤【四十間堀川】

1. 穴道湖合流点～荒隈橋下流

1. 市役所前から上流みる

2. 交融橋～月照寺橋

現況川幅: 36.0m  
計画川幅: 36.0m

3. 月照寺橋～北田川分流点

現況川幅: 17.0m  
計画川幅: 25.4m

2. 交融橋から上流みる

3. 月照寺橋から上流みる

### ⑦【中川】

1. 四十間堀川合流点～北循環線付近

現況川幅: 5.9m  
計画川幅: 20.4m

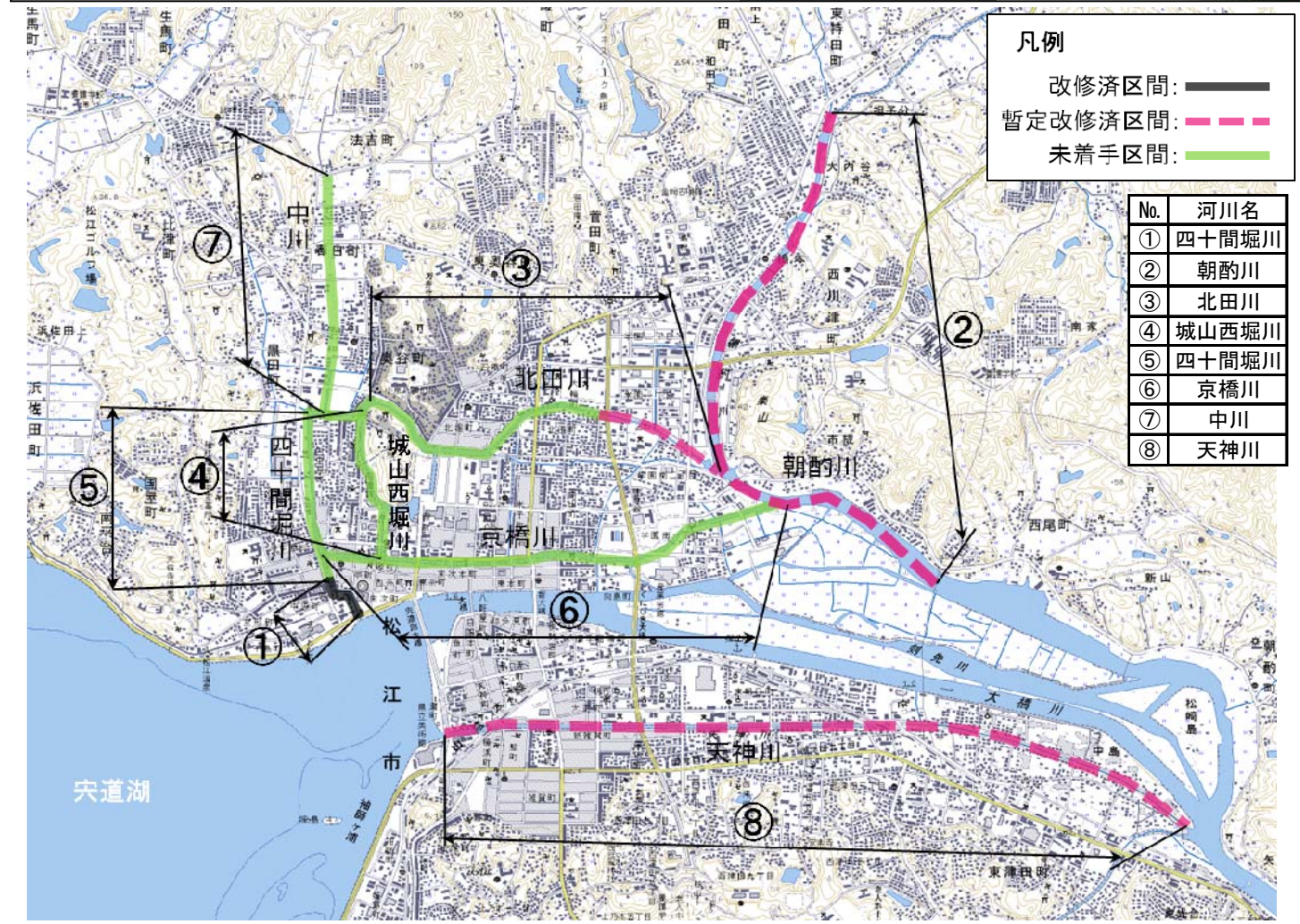
2. 北循環線付近より上流

現況川幅: 2.6m  
計画川幅: 16.0m

1. 西原春日線から下流みる

1. 西原橋から下流みる

2. 市道尾後1号線から上流みる



### ③【北田川】

1. 朝酌川合流点～米子川合流点

現況川幅: 28.3m  
計画川幅: 28.3m

2. 米子川合流点～北堀川合流点

現況川幅: 23.7m  
計画川幅: 28.3m

3. 北堀橋～北田川合流点

現況川幅: 39.0m  
計画川幅: 39.0m

1. 芽島橋から上流みる

2. 渡橋から下流みる

3. 武家屋敷前から下流みる

### ②【朝酌川】

1. 百足橋より下流

現況川幅: 94.0m  
計画川幅: 89.0m

2. 百足橋より上流

現況川幅: 63.0m  
計画川幅: 63.0m

1. 百足橋から下流みる

2. 百足橋から上流みる

### ④【城山西堀川】

1. 京橋川合流点～武道館付近

現況川幅: 5.8m  
計画川幅: 9.1m

2. 武道館付近～北田川分流点

現況川幅: 28.0m  
計画川幅: 28.0m

1. 京橋川合流点

2. 緑樹橋から上流みる

2. 龜田橋から下流みる(城山付近)

### ⑥【京橋川】

1. 朝酌川合流点～田町川分流点

現況川幅: 22.0m  
計画川幅: 26.3m

2. 田町川分流点～四十間堀川分流点

現況川幅: 18.0m  
計画川幅: 23.1m

1. 上流から水門みる

1. 北公園橋から下流みる

2. 栄橋から下流みる

2. 京橋から下流みる

### ⑧【天神川】

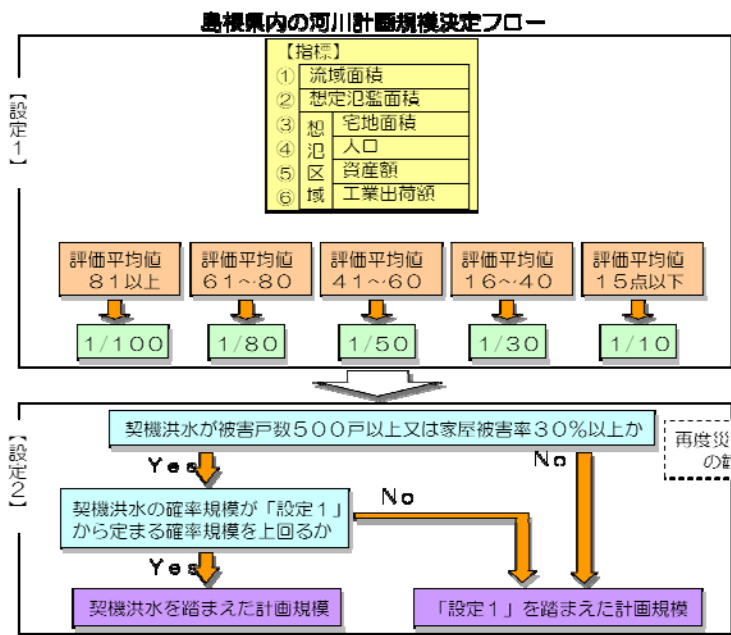
現況川幅: 27.5m  
計画川幅: 27.5m

# 松江堀川の治水計画について

- 松江堀川においては、おおよそ80年に1回の確率で発生する洪水(24時間雨量264mm)においても、自己流氾濫による家屋の浸水を防止することを目標とします。
- 松江市街地は、宅地の地盤高が低く雨水が排水されずに浸水するため、計画高水位は、床上浸水家屋が解消される標高(T.P.)+1.30mとします。なお、床下浸水については、個別に対策を検討します。
- 自己流氾濫による家屋の浸水を防ぐため、洪水を安全に流す川の断面が必要ですが、市街地における川の拡幅は相当なコストと時間を要するため、河川改修、流域対策、放水路を組み合わせた総合的な治水対策の検討が必要です。

## 基本条件の設定について

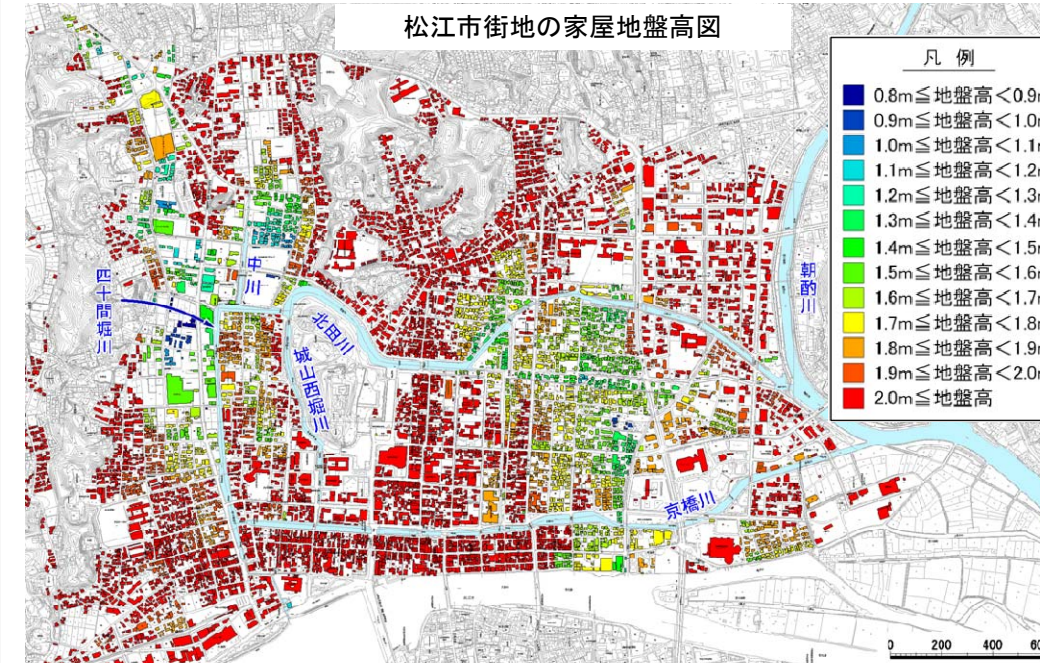
### 計画規模と計画目標



計画規模とは、洪水を防ぐための計画を作成するにあたり、安全に流すことのできる洪水の大きさのことです。計画規模を決定するにあたり、鳥根県では左図のような河川整備計画の設定フローを作成しており、流域面積、想定氾濫面積、資産、人口や過去の洪水規模から計画規模を決めています。

検討した結果、松江堀川の計画規模を、おおよそ80年に1回程度発生する洪水(24時間雨量264mm)の規模としました。

### 計画高水位



※T.P.とは、東京湾の中等潮位(平均海面)を0とし、各地点の標高を表したものです。

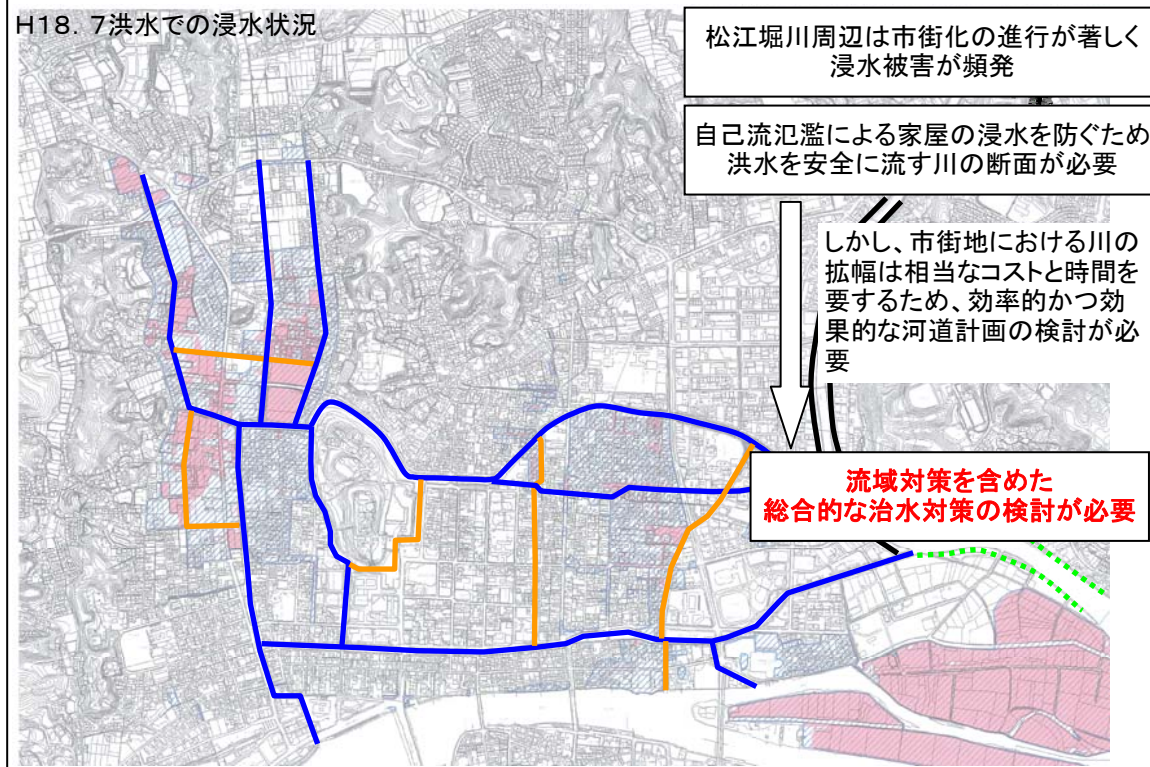
### 浸水深50cm以上の家屋は解消

地盤高(標高(T.P.m))	計画高水位(T.P.+1.3m)における浸水深(m)	家屋戸数(戸) 標高別	累加
0.7~0.8	0.6~0.5	0	0
0.8~0.9	0.5~0.4	7	7
0.9~1.0	0.4~0.3	23	30
1.0~1.1	0.3~0.2	30	60
1.1~1.2	0.2~0.1	46	106
1.2~1.3	0.1~0.0	55	161
1.3~1.4	0.0~0.0	181	342
1.4~1.5	0.0~0.0	122	464
1.5~1.6	0.0~0.0	346	810
1.6~1.7	0.0~0.0	489	1,299
1.7~1.8	0.0~0.0	670	1,969
1.8~1.9	0.0~0.0	598	2,567
1.9~2.0	0.0~0.0	544	3,111

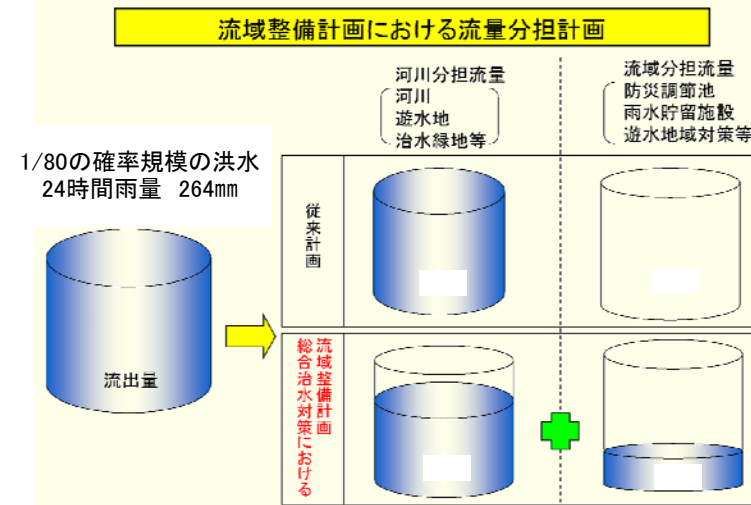
計画高水位とは、治水対策がなされた後、おおよそ80年に1回の確率で発生する洪水が河川を流れるときの水位で、治水計画の目標となる水位です。松江市街地は地盤高が低く、洪水時には河川の水位が宅地の地盤高より高くなり、雨水が川へ排水されず浸水します。計画高水位は、最低地盤高が0.8mであるため、床上浸水が解消される標高(T.P.)+1.30mとします。なお、床下浸水については、個別に対策を検討します。

## 総合的な治水対策について

### 総合治水対策の必要性



### 総合的な治水対策の考え方



従来の河川の整備計画は、河川改修などの河道における対策を行うだけでしたが、総合治水対策における流域整備計画では、河道における対策だけでなく、河川調整池や雨水浸透施設などの流域対策も加えた対策となります。この考え方により、川の水の量を分担し、計画を策定することになります。この流域整備計画が、「松江市街地治水計画検討委員会」にて提言を受けた後に策定する「松江市街地治水計画」となります。

### 総合的な治水対策のイメージ

